

片岡栗東線 都市計画街路整備事業

事業概要

片岡栗東線は、守山市欲賀町の天津守山近江八幡線(浜街道)から栗東市高野の国道1号に至る延長6.3kmの都市計画道路です。当路線は県内でも利用台数が有数のICである名神高速道路の栗東ICへのアクセス道路であり、さらにJR守山駅、栗東駅にも近いことから、沿線では住宅等の開発も進んでいるため、拡幅が未実施の区間は非常に交通量が多く、主要渋滞ポイントである勝部四丁目交差点付近では渋滞が慢性化している状態です。

また、当路線は草津守山線(大津湖南幹線)、国道8号、名神高速道路を東西に結ぶ物流にとっても重要な路線です。さらに現在事業中の国道8号野洲栗東バイパスが完成すれば、国道8号バイパスにもアクセスできることになります。

そのため、当事業は狭小な現道を4車線で拡幅することにより、渋滞を解消し、物流ネットワークの強化に資する産業・経済を支えることを目指します。

あわせて歩道についても連続しておらず非常に危険な状況にあることから、歩道整備を行い、歩行者等の安全な生活環境の確保に努めます。



片岡栗東線 都市計画街路整備事業

現在の様子

道の駅アグリ郷栗東 付近



4車線化により慢性的な渋滞が解消

守山市千代町 付近



4車線化、歩道整備工事を推進

千代町跨線橋 付近



千代跨線橋の横に新橋を整備
4車線化することで渋滞解消を目指す